

校長が選んだ中高生にお薦めの映画 10 + 10

私の幼い頃の夢は、今はなき職業となってしまった映画館の看板屋でした。実家のすぐ近くには映画館が3館もあり、一枚の写真をもとに西部劇やサスペンス劇のシーンを、巨大な看板に描く職人の姿に憧れていました。その影響もあり、今でも絵を描いたりしますが、週末には良く映画館や演劇鑑賞に出かけます。中学高校生の皆さんにも、ぜひ総合芸術としての映画をたくさん鑑賞して感性を磨いてほしいと願っています。学習、読書と同様に、時間に余裕のある時にこそ、良質な作品をたくさん見てほしいのです。なお、今回は一人の監督から一つの作品に絞って選びました。

また、高校2年生の「地理B」夏の課題では、私が選んだ「よりディープな作品群」をもとに、調べて鑑賞する「DVDで旅する世界の地理」を夏の課題としています。そちらもお楽しみください。

校長 石飛 一吉

《日本の10作品》

■ 『時をかける少女』 監督:大林 宣彦 公開:1983/2006年 上映時間:102分

筒井康隆が1972年に発表したヤングアダルト向けSF小説。ラベンダーの香りを嗅いだことで、時を自在に超える能力を身につけた中学3年生の少女が、その能力を通じて重ねていくさまざまな思いや経験を描いた作品NHKでテレビドラマ化され、後に大林 宣彦監督により実原田知世を主演に写映画化。大林監督による尾道を舞台に撮影した「尾道三部作」の一つ。その後、4度も実写映画化。2010年は谷口 正晃監督によって福島を舞台に仲 里依紗が主演(122分)。2006年には細田 守監督によりアニメーション化もされた。

■ 『ロボコン』 監督:古厩 智之 公開:2003年 上映時間:118分

高等工業専門学校に通う落ちこぼれ学生の葉沢里美とその仲間達が、『理数系の甲子園』とも言われる高専ロボットコンテスト(通称ロボコン)に挑戦する青春エンターテインメント映画。彼らが所属する第二ロボコン部は、優秀な学生の集まる第一ロボコン部と違い、変わり者のたまり場でやる気はない連中ばかりだった。しかし、第二ロボコン部顧問の指導もあって、合宿を通じて仲間達の間には友情とやる気が芽生えてくる。犬型ロボット「BOX フント」で全国大会に挑戦する。

■ 『花とアリス』 監督:岩井 俊二 公開:2004年 上映時間:135分

前年にインターネット配信された短編映画の実写長編版。明るく素直なハナと、おてんばでいつもハナを振り回しているアリスは幼なじみ。ハナは、落語研究会に所属する高校生の宮本に一目惚れし、同じ部活に入って何とか宮本に近づこうとする。そしてある嘘をついたハナは、宮本と急接近する。しかし、その嘘がバレそうになり、さらに嘘をつくはめに。しかも、その嘘がきっかけで、宮本が幼なじみのアリスに恋心を抱いてしまう。さて、二人の恋の行方は…? 前日譚にあたるアニメ『花とアリス殺人事件』もある。

■ 『スウィング ガールズ』 監督:矢口 史靖 公開:2004年 上映時間:105分

東北の田舎町を舞台に、ジャズの魅力に惹かれた女子高生がバンドを結成し、紆余曲折を経て一直線に突き進む、爽やかな青春“ジャズ”物語。高校野球予選の応援に行くブラスバンド部の弁当運びを口実に、補習を逃れた友子ら13人の生徒たち。しかし、ブラスバンド部員たちが集団食中毒で入院してしまい、友子たちが代役を務めることになる。出演者本人による迫力ある演奏、“ムーンライトセレナーデ”などの劇中を彩るスタンダードナンバーは秀逸。

■ 『ピンポン』 監督:曾利 文彦 公開:2005年 上映時間:100分

松本 大洋の同名コミックを映画化。卓球をこよなく愛し、勝つことに絶対的な自信を持ちながら天真爛漫で気分屋のペコと、“卓球は暇つぶし”と公言するクールなスマイルの幼なじみの二人。小さい頃から近所にある卓球場に通い、高校生になった二人は、共に片瀬高校卓球部に属していたものの練習にはまともに参加しない怠惰な毎日を送っていた。そんな二人が対戦すると必ずペコが優位に立つ。しかし、日本卓球界の星と期待された過去を持つ卓球部顧問は、スマイルの才能に目を付け、執拗に指導しようとするのだったが…。

■『博士の愛した数式』 監督: 小泉 堯史 公開:2006年 上映時間:117分

第1回本屋大賞を受賞した小川洋子の作品を映画化。交通事故の後遺症で80分しか記憶のもたない数学博士の下で働くことになったシングルマザーの母とその息子は、博士の人柄と、彼の語る数式の美しさに魅了され、3人は次第にうち解けていく。しかし、やがて博士の痛ましい過去が明らかになっていく。物語は、成長して数学教師になった「ルート」と呼ばれる息子が、授業で教えるシーンと並行して進んでいく。「素数」「完全数」といった単語も登場するが、淡々と物語は進行していく。

■『沈まぬ太陽』 監督: 若松 節朗 公開:2009年 上映時間:202分

累計7000万部を越える山崎豊子原作のベストセラー長編小説の映画化。全編で3時間を越える大作。ナショナルフラッグである巨大企業「国民航空」の労働組合委員長を務める恩地は、職場環境の改善をめざし会社側と戦うが、懲罰人事で海外赴任を命じられてしまう。パキスタン、イラン、ケニアと次々と転勤を強いられ、やっと10年後に本社復帰を果たす。しかし、帰国後間もなく自社のジャンボ機が御巢鷹山に墜落するという事件に直面し、遺族担当となる。

■『舟を編む』 監督: 石井 裕也 公開:2013年 上映時間:133分

出版社の辞書編集部を舞台に、新しい辞書『大渡海(だいとかい)』づくりに取り組む人々の姿を描いた作品。見出し語は24万語、完成まで15年をかけて「今を生きる辞書」に取り組む。独自のセンスをもつ主人公が、個性派ぞろいの編集部の先輩達に囲まれ、辞書編纂の世界に没頭する。そんなある日、運命の女性と出会うが、言葉のプロでありながら、彼女に気持ちを伝えるにふさわしい言葉が見つからない。問題が山積みの辞書編集部、人々の葛藤を描く。原作は2012年本屋大賞を受賞した三浦しおんの作品。

■『清洲会議』 監督: 三谷 幸喜 公開:2013年 上映時間:138分

監督が初めて手がけた時代劇作品。天正10(1582)年、本能寺の変で織田信長が死去した後、家臣の柴田勝家と羽柴(豊臣)秀吉らが後継者を決め、日本史上初めて合議によって歴史が動いたとされる清須会議の全貌を描く。会議に出席したのは勝家、秀吉のほか勝家の盟友である丹羽長秀、優柔不断な池田恒興の4人、その間で繰り広げられる一進一退の頭脳戦。様々な駆け引きの中で騙し騙され、取り巻くすべての人々の思惑が絡み合う。

■『キングダム』 監督: 佐藤 信介 公開:2019年 上映時間:134分

中国の春秋戦国時代を舞台にした原 泰久のベストセラー漫画を実写映画化した作品。紀元前245年、春秋戦国時代の中国。西方にある秦の国。天下の大將軍になることを夢見る孤児の信と漂は、日々、剣術の鍛錬に励む。中国統一を目指し、後に始皇帝となる嬴政(えいせい)が、強敵に立ち向かいながら夢の実現をめざす物語。漂は、王都の大臣の昌文に召し上げられ王宮へ入るが、クーデターにより致命傷を負う。漂から託された地図を頼りに信は、嬴政と協力し、王座奪還するために戦う。

《海外の 10 作品》



■ 『フォレスト ガンプ 一期一会』 監督:ロバート=ゼメキス 公開:1995年 上映時間:142分

1985年に発表されたウインストン=グルームによる同名の作品の映画化。頭は少し弱い、誰にも負けない俊足と清らかな心をもった男フォレスト=ガンプの数奇な人生を、アメリカ現代史と重ねて描き出していくヒューマンドラマ。普通の子供と同じように育てられたガンプは、小学校で優しく美しい少女ジェニーと運命的な出会いを果たす。俊足を買われてアメフト選手として入学した大学ではスター選手として活躍。卒業後は軍隊に入り、ベトナム戦争で仲間を救って勲章を授かる。除隊後は、エビ漁を始めて大成功を収めるのだが…。

■ 『初恋のきた道』 監督:張 芸謀(チャン イーモウ) 公開:1999年 上映時間:89分

鮑十(パオ シー)原作。物語は、元教師だった父の死を聞いて都会から故郷である寒村に息子が戻ってきたところから始まる。今は老いた母一人が家に残る。彼女は、かつて都会から赴任してきた若い教師に恋した村の読み書きできない娘だった。村人総出の学校づくりの中、彼女は手作りの料理に、想いを込めて彼の弁当を作った。いつしかその気持ちは彼に通じ、二人の心は近づく。しかし、「文化大革命」という時代の荒波によって、二人は離れ離れになる。待ちわびる彼女の元に彼が戻り、教師としての生活が始まった…。

■ 『リトルダンサー』 監督:スティーブン=ダルドリー 公開:2001年 上映時間:111分

1984年イギリス北部の炭鉱町ダーラムを舞台に、一人の少年がバレエに夢中になる。演劇先進国のイギリスと謂えども、当時は、まだバレエは女性が舞台で踊るものとされていた。そんな中、ボクシングを習っていた少年がふとしたきっかけからバレエに夢中になる。内緒でバレエを習っていることを知った父親は激怒し、親子の間に亀裂が入る。しかし、失意と閉塞感の中、無心に踊るわが子の姿を見た父は、その才能を見抜き、ついにロンドンにあるロイヤルバレエ学校の受験に向かわせる。そして14年後…。

■ 『シービスケット』 監督:ゲイリー=ロス 公開:2003年 上映時間:141分

20世紀前半の大恐慌時代のアメリカ合衆国に実在したシービスケットという競走馬と、それを取り巻く3人の男達の姿を描いたローラ=ヒレンブランドの同名小説を映画化。挫折を味わった3人と1頭の馬による再起の物語。皮肉にも息子を自動車事故で亡くした自動車販売で富豪になったハワード、時代に取り残された元カウボーイの調教師のスミス、勝てずにすさんだ生活をしている草競馬の騎手レッド、見捨てられていた競走馬シービスケットが織りなす物語。

■ 『チャーリーとチョコレート工場』 監督:ティム=バートン 公開:2005年 上映時間:115分

ロアルド=ダール原作の児童小説『チョコレート工場』の映画化。世界中で大人気のウィリー=ウォンカ製のお菓子。しかし、その工場の中は完全非公開であり、謎に満ちていた。ある日、黄金のチケット入りのチョコレートを買った子供5人だけを工場見学に招待するという副賞のついたお菓子を発売する。貧しいながらも純真な少年チャーリーをはじめチケットを手に入れた5人の少年少女たちは、チョコレート工場に招かれて奇妙な体験をしていく。途中で、さまざまなハプニングがおき、一人ずつ脱落していくが…。

■ 『ネバーランド』 監督:アラン=フォスター 公開:2005年 上映時間:100分

アラン=ニーの戯曲『The Man Who Was Peter Pan』を原作としたイギリス映画。ロンドンの劇場で新作の『リトル・メアリー』の初日を迎えていた劇作家のジェームズ=バリだが、観客の反応は芳しくなく、翌日の新聞でも酷評されてしまう。失意の中で日課の散歩に出かけるジェームズ=バリは、そこで無邪気に遊んでいる子供と出会う。しかし、彼は父親を失い失意の中、夢を持つことをあきらめ心を閉ざしていた。ジェームズは、彼に空想で遊ぶことと物語を書くこと教え、その中で物語の着想を得るが、これが後に『ピーターパン』の原型となるのだった。

■ 『善き人のためのソナタ』 監督:F.H.フォン=ドナースマルク 公開:2007年 上映時間:137分

東西冷戦下の1984年の東ベルリンを舞台に国家保安省(シュタージ)の局員ヴィースラーは、ある日、反体制の疑いのある劇作家ドライマンと、その同棲相手の舞台女優クリスタを監視するよう命じられる。さっそくドライマンのアパートには盗聴器が仕掛けられ、ヴィースラーは徹底した監視を開始する。しかし、聴こえてくる彼らの世界にヴィースラーは次第に共鳴していく。そして、ドライマンが弾いたピアノソナタを耳にした時、ヴィースラーの心は激しく揺さぶられる。監視社会の問題点を描く社会派作品。

■ 『きっと、うまくいく』 監督: ラージクマール=ヒラニ 公開:2009年 上映時間:170分

インドで興行収入歴代ナンバーワンを記録する大ヒットとなったコメディドラマ。カースト制度という閉鎖的制度を未だに残すインド社会の中であって、親達は子供を高学歴で優秀な大学へ送り込み、高収入の会社員にしようとする。ますます加熱する学歴競争、教育問題を軸に、真に「今を生きる」ことを問いかける笑いと涙に包まれた作品。インド屈指のエリート理系大学 ICE を舞台に、個性的で型破りな 3 人が騒動を引き起こしながら、行方不明になった友人を探すミステリー仕立ての物語。

■ 『最強のふたり』 監督: オリヴィエ=カナッシュ、エリック=トレダノ 公開:2011年 上映時間:100分

頸髄損傷で体が不自由な大富豪フィリップと、その介護人となった貧困層の移民の黒人青年ドリスとの交流を、実話をもとに、ときにコミカルに描いたヒューマンコメディ。「障害者を障害者とも思わぬ」言動でフィリップを容赦なくおちょくるドリス。しかし、腫れ物に触れるような接し方をされる屈辱より、同情のかけらも見せないドリスの言動がフィリップとの間に安心感と信頼を生む。年齢や環境、地位も趣味も異なる二人が、ぶつかり合いながらも、お互いを認め合い、変化していくプロセスを描く。

■ 『少女は自転車に乗って』 監督: ハイファ=アル=マンスール 公開:2012年 上映時間:98分

6 歳になったら男女別々に生活するというイスラームの掟の中、10 歳の少女ワジダはおてんば盛り。ある日、雑貨店できれいな自転車を見つけたワジダは一目でその自転車を気に入ってしまう。なんとしてもその自転車を手に入れようとするが、厳格な習慣を重んじる父や周囲の大人たちは彼女が自転車に乗ることに男子とともに遊ぶことにも否定的だった。そんな時、学校でクルアーンの暗唱コンテストが行われることになり、優勝賞金が 1000 リヤルであることを知ったワジダはコンテストに参加することにする。クルアーンが大の苦手だったが…。

1980 年代に発表されたもっと古い作品の中にも、良質なものがたくさんあります。時間があつたら、ぜひ鑑賞し、楽しんでください。

◆ 『ニュー シネマ パラダイス』 監督: ジュゼッペ=トルナトーレ 公開:1989年

◆ 『レインマン』 監督: バリー=レヴィンソン 公開:1988年

◆ 『ラストエンペラー』 監督: ベルナルド=ベルトルッチ 公開:1987年

◆ 『バック トゥー ザ フューチャー』三部作 監督: ロバート=ゼメキス 公開:1985-90年

◆ 『インディー ジョーンズ』シリーズ 5 作品 監督: スティーヴン=スピルバーグ 公開:1981-2021(予定)年

◆ 『E・T』 監督: スティーヴン=スピルバーグ 公開:1982年